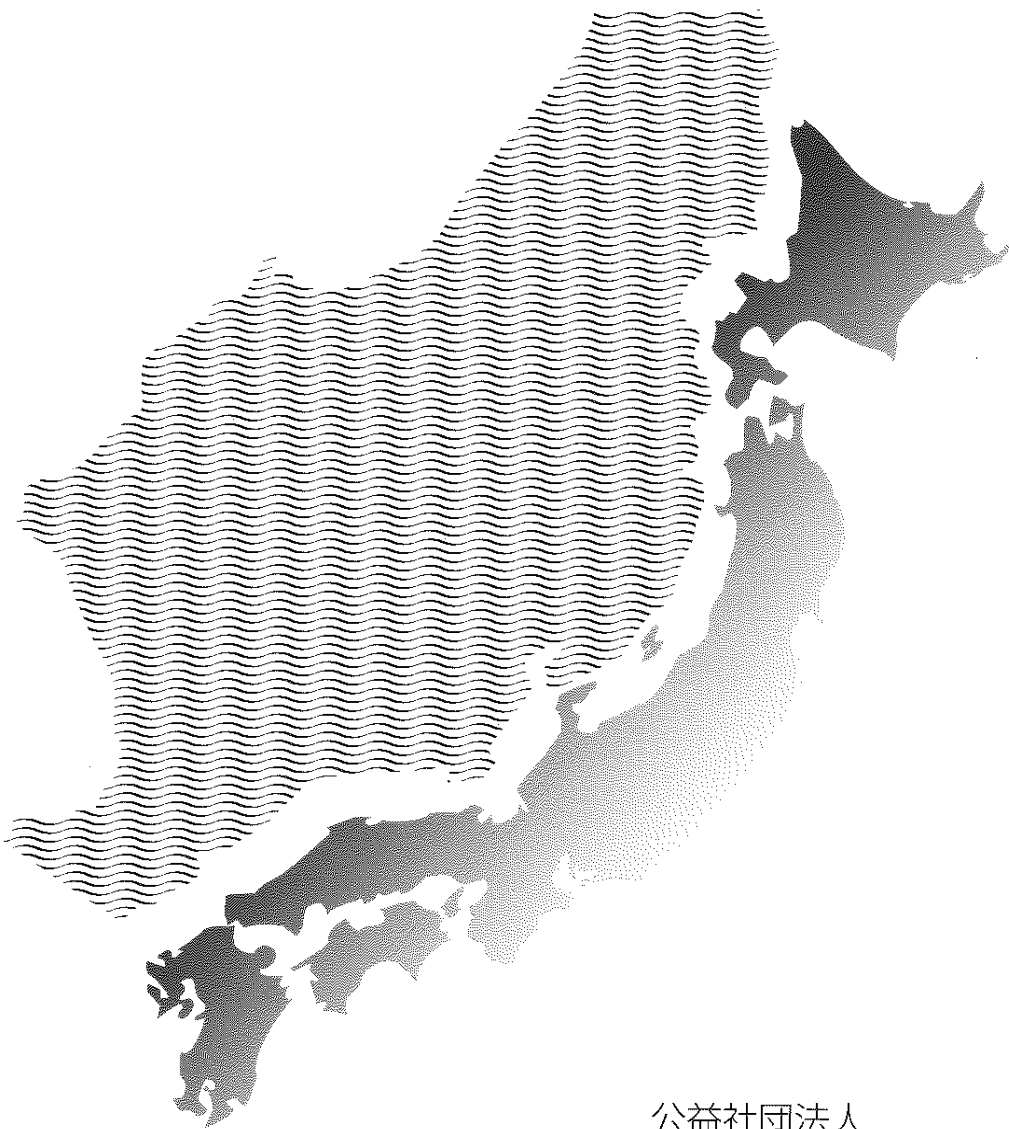


会報

第107号



公益社団法人
日本海海難防止協会

目 次

I 事業報告

I-1 委員会等開催

- 1 秋田LNG基地の航行安全に関する調査
 - 1-1 作業部会…………… 1
 - 1-2 第2回委員会…………… 1
- 2 中部電力(株)上越火力発電所LNG栈橋対象船舶等に係る航行安全調査
 - 2-1 委員会…………… 3
- 3 伏木富山港(伏木地区)大型客船入港に係る航行安全調査
 - 3-1 第1回作業部会…………… 4
 - 3-2 ビジュアル操船シミュレータ実験…………… 4
 - 3-3 第2回作業部会…………… 4
- 4 舞鶴港港湾計画改訂等に伴う船舶航行安全対策調査
 - 4-1 第1回委員会…………… 6
 - 4-2 第2回委員会…………… 7
- 5 国際石油開発帝石(株)直江津LNG受入基地対象LNG船の大型化計画の安全性に関する調査
 - 5-1 現地調査…………… 8
 - 5-2 第1回委員会…………… 8
 - 5-3 作業部会…………… 9
- 6 北陸電力(株)富山新港火力発電所LNG船の航行安全に関する調査委員会
 - 6-1 作業部会…………… 10
 - 6-2 第3回委員会…………… 10
- 7 金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査
 - 7-1 第1回委員会…………… 13
- 8 新潟港(東港)大型客船入出港に係る航行安全調査
 - 8-1 第1回調査会…………… 14

II 会務報告

- II-1 業務日誌抄…………… 15
- II-2 業務予定…………… 16

Ⅲ 寄稿欄

① 走錨注意！…………… 17

② 出雲の神々に思う…………… 18

Ⅳ 連絡事項

☆会員名簿の変更…………… 22

I 事業報告

I-1 委員会等開催

1 秋田LNG基地の航行安全に関する調査

1-1 作業部会

- (1) 開催日：平成24年9月5日(水)
- (2) 場所：秋田市 ホテルメトロポリタン秋田
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 第1回委員会質疑対応状況について
 - ② 操船の安全性について
 - ③ 係留の安全性について
 - ④ 港内交通の影響について
 - ⑤ 航行安全対策骨子案について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員 大津 皓平 国立大学法人東京海洋大学 名誉教授
佐伯 優 秋田船川水先区水先人会 会長

関係官公庁

長崎 孝俊 第二管区海上保安本部交通部 安全課長
眞鍋 昌史 " 安全課 海務係
山本 信和 秋田海上保安部 次長
松澤 慎一 " 交通課長
藤井 等 " 交通課 安全係長

事務局 東郷 有弘 公益社団法人日本海海難防止協会 専務理事
安藤 眞博 " 事業部長
小関 博 " 主任研究員
安田 克 株式会社日本海洋科学 コンサルタントグループ 副部長
岡野 匡 " コンサルタントグループ 主任研究員

1-2 第2回委員会

- (1) 開催日：平成24年10月3日(水)
- (2) 場所：秋田市 ホテルメトロポリタン秋田
- (3) 出席者：別記のとおり

(4) 議 題：

- ① 第1回委員会質疑対応状況について
- ② 操船シミュレーション結果について
- ③ 操船の安全性について
- ④ 係留の安全性について
- ⑤ 港内交通の影響について
- ⑥ 航行安全対策案について
- ⑦ 報告書構成案について

別 記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委 員	大津 皓平	国立大学法人東京海洋大学 名誉教授
	渡邊 泰輔	社団法人日本船長協会 常務理事
	木本 弘之	独立行政法人海上災害防止センター 調査研究室長
	佐伯 優	秋田船川水先区水先人会 会長
	船木 一美	秋田海陸運送株式会社 営業部 次長
	三浦 隆義	日本通運株式会社秋田港支店 支店長
	二田 隆夫	秋田曳船株式会社 取締役海務部長
(欠)	山本 健藏	秋田県漁業協同組合 代表理事組合長
(代)	三浦 彰	〃 総務部 次長

関係官公庁

	長崎 孝俊	第二管区海上保安本部交通部 安全課長
	眞鍋 昌史	〃 安全課 海務係
	松谷 巧	秋田海上保安部部長
	松澤 慎一	〃 交通課長
	藤井 等	〃 交通課 安全係長
	邊見 充	東北地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 課長補佐
	鈴木 昭宏	東北地方整備局 秋田港湾事務所長
	鳴海 敏光	秋田地方气象台 防災業務課長
	土谷 諄一	秋田県 建設部 港湾空港課長
	木村 秀隆	秋田県 秋田港湾事務所 管理班 主査
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会 専務理事
	安藤 眞博	〃 事業部長
	小関 博	〃 主任研究員
	花棚 景子	〃 調査員
	安田 克	株式会社日本海洋科学 コンサルタントグループ 副部長
	岡野 匡	〃 コンサルタントグループ 主任研究員

2 中部電力(株)上越火力発電所LNG棧橋対象船舶等に係る航行安全調査

2-1 委員会

- (1) 開催日：平成24年9月25日(火)
- (2) 場所：新潟市 万代シルバーホテル
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 調査計画の概要について
 - ② 対象船舶諸元変更に係る安全性について
 - ③ 軽喫水入港の安全性について
 - ④ 航行安全対策(確認事項)について
 - ⑤ その他

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	大津 皓平	国立大学法人東京海洋大学 名誉教授
	高橋 勝	海上保安大学校 名誉教授
	山崎 祐介	富山商船高等専門学校 名誉教授
	久古 弘幸	一般社団法人日本船長協会 副会長
	塚原 政和	新潟水先区水先人会 会長
	滝田 守	直江津港船舶代理店会 事務局長(直江津海陸運送(株)業務部部长)
	伊藤 則彦	日本海曳船株式会社 取締役海務部長

関係官公庁

	石田 哲生	第九管区海上保安本部 交通部長
	赤木 竜逸	” 交通部 安全課 海務係長
	本間 一三	新潟海上保安部 交通課長
	岸本 秀樹	” 交通課 安全係長
	山崎 一宏	新潟海上保安部 交通課警備救難課 防災係長
	揚野 寛治	上越海上保安署長
	蜂須賀和吉	北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所 副所長
	渡邊 昇	新潟県交通政策局 港湾整備課 参事
	笹川 岳之	新潟県上越地域振興局 直江津港湾事務所長
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会 専務理事
	安藤 眞博	” 事業部長
	花棚 景子	” 調査員

3 伏木富山港（伏木地区）大型客船入港に係る航行安全調査

3-1 第1回作業部会

- (1) 開催日 平成24年9月26日(水)
- (2) 開催場所 富山市 富山国際会議場
- (3) 出席者 別記のとおり
- (4) 議題
 - ① 第1回委員会質疑対応について
 - ② 大型クルーズ客船の入港計画について
 - ③ 数値操船シミュレーション結果について
 - ④ 係留の安全性の検討について
 - ⑤ 10万GT客船の操船の安全性について
 - ⑥ 航行安全対策骨子案について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	山崎 祐介	富山商船高等専門学校	名誉教授				
	藤森 剛	伏木水先区水先人会	会長				
	神田 修二	伏木水先区水先人会	副会長				
関係官公庁							
	橋野 好雄	第九管区海上保安本部	交通部 安全課	専門官			
	赤木 竜逸	〃	交通部 安全課	海務係長			
	峯吉 栄治	伏木海上保安部	交通課長				
	安藤 洋	〃	交通課	安全係長			
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会		専務理事			
	安藤 眞博	〃		事業部長			
	檜ヶ谷正道	〃		主任研究員			
	仙田 晶一	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング	海洋技術部	部長			
	岩永 恵子	〃	海洋技術部	研究員			

3-2 ビジュアル操船シミュレータ実験

- (1) 開催日 平成24年10月22日(月)～23日(火)
- (2) 開催場所 東京都 (株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング

3-3 第2回作業部会

- (1) 開催日 平成24年12月19日(水)
- (2) 開催場所 富山市 富山国際会議場
- (3) 議題：
 - ① ビジュアル操船シミュレータ実験結果について

- ② 航行安全対策案について
- ③ 報告書構成案について
- ④ その他

4 舞鶴港港湾計画改訂等に伴う船舶航行安全対策調査

4-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成24年10月15日(月)
- (2) 場所：舞鶴市 舞鶴グランドホテル
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 舞鶴港港湾計画の概要について
 - ② 大型クルーズ客船入港計画について
 - ③ 調査・検討の計画について
 - ④ 舞鶴港の現況について
 - ⑤ 航行環境について
 - ⑥ 操船シミュレーション方案について
 - ⑦ 係留施設の検討法について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	寺本 定美	海上保安大学校	名誉教授
	日當 博喜	海上保安大学校	副校長(海上安全学講座 教授)
	(欠)渡邊 泰輔	一般社団法人日本船長協会	常務理事
	(代)藤澤 昌弘	〃	常務理事
	河地 俊行	舞鶴水先区水先人会	会長
	松下 貞久	飯野港運株式会社	参与
	久保 勝	舞鶴倉庫株式会社	取締役舞鶴事業部長
	沖野 智	日本通運株式会社舞鶴海運支店	支店長
	原 正朗	ユニバーサル造船株式会社舞鶴事業所	ドックマスター
	杉崎 良男	新日本海フェリー株式会社 舞鶴支店	取締役運航管理担当 運航管理者
	藤本 啓史	関西電力株式会社舞鶴発電所	計画課長
	鍵本 房男	舞鶴曳船株式会社	代表取締役
	倉 勉	京都府漁業協同組合連合会	代表理事専務
	山田 悦子	京都府小型船安全協会	事務局長

オブザーバー

上野 善洸 舞鶴水先区水先人会 水先人

関係官公庁

山崎 正幸	第八管区海上保安本部	交通部	企画調整官
平野 恵三	〃		安全課長
井上 景介	〃		安全課 海務係長
松尾 映正	舞鶴海上保安部長		

	藤本 正人	〃	交通課長	
	島田 達也	〃	交通課 安全係長	
	片岡 輝行	近畿地方整備局	舞鶴港湾事務所	工務課長
	高橋 敏文	近畿地方整備局	舞鶴港湾事務所	工務課 港湾施設分析評価官
	北澤 健二	〃	〃	工務課 第一工務係長
	真木 敏郎	舞鶴海洋气象台	観測予報課長	
	青島 忠俊	海上自衛隊舞鶴地方総監部	防衛部(第4幕僚室)	第4幕僚室長
	吉田 泰啓	〃	管理部(施設課)	施設係長
	中井 哲也	舞鶴市産業振興部	みなと振興・国際交流課	係長
	山下 智弘	〃	〃	主査
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会	専務理事	
	安藤 眞博	〃	事業部長	
	小関 博	〃	主任研究員	
	花棚 景子	〃	調査員	
	安田 克	株式会社日本海洋科学	コンサルタントグループ	副部長
	岡野 匡	〃	コンサルタントグループ	主任研究員

4-2 第2回委員会

- (1) 開催日：平成24年12月27日(木)
- (2) 場所：舞鶴市 舞鶴市西駅交流センター
- (3) 議題：
 - ① 第1回委員会後の対応について
 - ② 舞鶴港湾計画の安全性について
 - ③ 舞鶴港湾計画に係る航行安全対策案について
 - ④ 操船シミュレーションに係る基本検討結果について

5 国際石油開発帝石(株)直江津LNG受入基地対象LNG船の大型化計画の安全性に関する調査

5-1 現地調査

- (1) 実施日：平成24年10月17日(水)
- (2) 場所：直江津港LNG基地周辺

5-2 第1回委員会

- (1) 開催日：平成24年10月17日(水)
- (2) 場所：上越市 ホテルハイマート
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 調査・検討の計画について
 - ② 直江津LNG受入基地対象船舶大型化計画について
 - ③ 直江津港の現況について
 - ④ 航行環境について
 - ⑤ 数値操船シミュレーション方案について
 - ⑥ 係留動揺シミュレーション方案について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	大津 皓平	国立大学法人東京海洋大学 名誉教授
	高橋 勝	海上保安大学校 名誉教授
	山崎 祐介	富山商船高等専門学校 名誉教授
	木本 弘之	独立行政法人海上災害防止センター 調査研究室長
	藤澤 昌弘	一般社団法人日本船長協会 常務理事
	西村 陽造	新潟水先区水先人会 会長
(欠)	滝田 守	直江津港船舶代理店会 事務局長(直江津海陸運送(株)業務部部长)
(代)	木嶋 匡	” 事務局
	伊藤 則彦	日本海曳船株式会社 取締役海務部長

関係官公庁

	石田 哲生	第九管区海上保安本部 交通部長
	赤木 竜逸	” 交通部 安全課 海務係長
	佐藤 良夫	” 警備救難部 救難課 海上防災係長
	本間 一三	新潟海上保安部 交通課長
	揚野 寛治	上越海上保安署長
	徳竹 翔吾	” 署員
	高橋 伸一	北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所 工務課長

	橘 薫	新潟地方気象台 気象防災情報調整官
	渡邊 昇	新潟県交通政策局 港湾整備課 参事
	笹川 岳之	新潟県上越地域振興局 直江津港湾事務所長
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会 専務理事
	安藤 眞博	〃 事業部長
	小関 博	〃 主任研究員
	檜ヶ谷正道	〃 主任研究員
	花棚 景子	〃 調査員
	仙田 晶一	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング 海洋技術部 部長
	濱木 欣一	〃 海洋技術部 主任研究員
	中村 紳也	株式会社日本海洋科学 専務執行役員
	西澤 慶介	〃 コンサルタントグループ 主任研究員

5-3 作業部会

- (1) 開催日：平成24年12月25日(火)
- (2) 場所：新潟市 万代シルバーホテル
- (3) 議題：
 - ① 第1回委員会質疑対応について
 - ② 数値シミュレーション結果の評価について
 - ③ ビジュアル操船シミュレータ実験方案について

6 北陸電力(株)富山新港火力発電所LNG船の航行安全に関する調査委員会

6-1 作業部会

- (1) 開催日：平成24年10月29日(月)
- (2) 場所：富山市 富山国際会議場
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 第2回委員会質疑応答について
 - ② 入出港操船の安全性について
 - ③ 係留の安全性について
 - ④ 係留中の津波影響について
 - ⑤ 北陸電力岸壁着離岸船の安全性について
 - ⑥ 航行安全対策案について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	大津 皓平	国立大学法人東京海洋大学	名誉教授
	藤森 剛	伏木水先区水先人会	会長
	神田 修二	〃	副会長
関係官公庁			
	岡島 史典	第九管区海上保安本部	交通部 企画調整官
	赤木 竜逸	第九管区海上保安本部	交通部 安全課 海務係長
	峯吉 栄治	伏木海上保安部	交通課長
	安藤 洋	〃	交通課 安全係長
	釣谷 聡	富山県土木部	港湾課 課長補佐
	金厚 伴行	〃	港湾課 主任
	堀川 浩伸	〃	港湾課 主任
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会	専務理事
	安藤 眞博	〃	事業部長
	小関 博	〃	主任研究員
	伊藤 格	株式会社日本海洋科学	コンサルタントグループ 統括部長
	大江 隆弘	〃	コンサルタントグループ

6-2 第3回委員会

- (1) 開催日：平成24年11月20日(火)
- (2) 場所：富山市 オークスカナルパークホテル富山
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：

- ① 第2回委員会質疑応答について
- ② ビジュアル操船シミュレータ実験結果について
- ③ 入出港操船の安全性について
- ④ 係留の安全性の検討結果について
- ⑤ 係留中のLNG船への津波影響調査結果について
- ⑥ 係留の安全性について
- ⑦ 北陸電力岸壁着離岸船の安全性について
- ⑧ 航行安全対策案について
- ⑨ 報告書構成案について

別 記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	大津 皓平	国立大学法人東京海洋大学	名誉教授
	高橋 勝	海上保安大学校	名誉教授
	山崎 祐介	富山商船高等専門学校	名誉教授
(欠)	千葉 元	独立行政法人富山高等専門学校	教授
	木本 弘之	独立行政法人海上災害防止センター	調査研究室長
(欠)	小島 茂	一般社団法人日本船長協会	会長
(代)	渡邊 泰輔	一般社団法人日本船長協会	常務理事
	藤森 剛	伏木水先区水先人会	会長
	神田 修二	〃	副会長
	針山 健二	伏木海陸運送株式会社	取締役社長
(欠)	矢富 邦昌	北陸海事株式会社	取締役社長
(代)	大井 明彦	北陸海事株式会社	常務取締役
(欠)	石野 正昭	新湊漁業協同組合	監事
	丸山比郎志	富山県小型船交通安全協会	副会長・事務局長

委員随員

	濱田 誠一	独立行政法人海上災害防止センター	調査研究室 室長代理
	飴谷 輝慶	伏木海陸運送株式会社	船舶部長

関係官公庁

	石田 哲生	第九管区海上保安本部	交通部長
	赤木 竜逸	〃	交通部 安全課 海務係長
	高橋 敏男	伏木海上保安部長	
	峯吉 栄治	〃	交通課長
	安藤 洋	〃	交通課 安全係長
	衛藤 謙介	北陸地方整備局	伏木富山港湾事務所長
	阿部 武	北陸地方整備局	伏木富山港湾事務所 企画調整課長

	村岡 清孝	富山県土木部 港湾課 課長	
	金厚 伴行	〃 港湾課 主任	
	遠藤 信一	富山県 富山新港管理局 船舶課長	
	大西 誠	射水市産業経済部 港湾・企画立地課 課長	
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会 専務理事	
	安藤 眞博	〃 事業部長	
	小関 博	〃 主任研究員	
	花棚 景子	〃 調査員	
	伊藤 格	株式会社日本海洋科学 コンサルタントグループ 統括部長	
	大江 隆弘	〃 コンサルタントグループ	

7 金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査

7-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成24年11月7日(水)
- (2) 場所：金沢市 石川県県庁会議室
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 調査・検討の計画について
 - ② 大型客船の入港計画について
 - ③ 金沢港の現状について
 - ④ 航行環境について
 - ⑤ 操船の安全性の検討について
 - ⑥ 係留の安全性の検討について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	山崎 祐介	富山商船高等専門学校 名誉教授
	久古 弘幸	一般社団法人日本船長協会 副会長
	松田 信悟	七尾水先区水先人会 会長
	東川 昌樹	株式会社金沢港運 海務部 船舶代理店課長
	国光 秀彦	北陸曳船株式会社 代表取締役社長

関係官公庁

	石田 哲生	第九管区海上保安本部 交通部長
	橋野 好雄	” 交通部 安全課 専門官
	小泉悦次郎	金沢海上保安部長
	関口 史洋	” 交通課長
	川村 勝彦	” 交通課 安全係長
	高松 恭文	北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所 副所長
	原 与志治	金沢地方气象台 防災業務課 防災気象官

事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会 専務理事
	安藤 眞博	” 事業部長
	檜ヶ谷正道	” 主任研究員
	花棚 景子	” 調査員
	仙田 晶一	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング 海洋技術部 部長
	大竹祐一郎	” 海洋技術部 上席研究員
	岩永 恵子	” 海洋技術部 研究員

8 新潟港(東港)大型客船入出港に係る航行安全調査

8-1 第1回調査会

- (1) 開催日：平成24年12月7日(金)
- (2) 場所：新潟市 ほんぽーと
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 議題：
 - ① 調査・検討の計画について
 - ② 新潟港(東港)大型客船の入港計画について
 - ③ 新潟港(東港)の現状について
 - ④ 航行環境について
 - ⑤ 操船に係る基礎的検討方法について
 - ⑥ 操船シミュレーション検討方案について
 - ⑦ 係留の安全性の検討方法について

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

委員	山崎 祐介	富山商船高等専門学校	名誉教授
	久古 弘幸	一般社団法人日本船長協会	副会長
	西村 陽造	新潟水先区水先人会	会長
	武石 実徳	新潟港船舶代理店会	事務局 (株)リンコーコーポレーション東港支社 船舶業務部長
	伊藤 則彦	日本海曳船株式会社	取締役海務部長

関係官公庁

	石田 哲生	第九管区海上保安本部	交通部長
	橋野 好雄	〃	交通部 安全課 専門官
	永井 文夫	新潟海上保安部	次長
	本間 一三	〃	交通課長
	佐久間満春	〃	交通課 専門官
	蜂須賀和吉	北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所	副所長
	橘 薫	新潟地方气象台	気象防災情報調整官
事務局	東郷 有弘	公益社団法人日本海海難防止協会	専務理事
	安藤 眞博	〃	事業部長
	檜ヶ谷正道	〃	主任研究員
	花棚 景子	〃	調査員
	仙田 晶一	株式会社エム・オー・エル・マリンコンサルティング	海洋技術部 部長
	岩永 恵子	〃	海洋技術部 研究

Ⅱ 会 務 報 告

Ⅱ-1 業 務 日 誌 抄

(平成 24 年 9 月～12 月まで)

月 日	内 容	
9 月 5 日(水)	秋田 LNG 基地の航行安全に関する調査 作業部会	(秋田市)
9 月 25 日(火)	中部電力(株)上越火力発電所 LNG 栈橋対象船舶等に係る航行安全調査 委員会	(新潟市)
9 月 26 日(水)	伏木富山港(伏木地区)大型客船入港に係る航行安全調査 第 1 回作業部会	(富山市)
10 月 3 日(水)	秋田 LNG 基地の航行安全に関する調査 第 2 回委員会	(秋田市)
10 月 15 日(月)	舞鶴港港湾計画改訂等に伴う船舶航行安全対策調査 第 1 回委員会	(舞鶴市)
10 月 17 日(水)	国際石油開発(株)直江津 LNG 受入基地対象 LNG 船の大型化計画の安全性に関 する調査 現地調査及び第 1 回委員会	(上越市)
10 月 22 日(月) ～23 日(火)	伏木富山港(伏木地区)大型客船入港に係る航行安全調査 操船シミュレータ実験	(東京都)
10 月 29 日(月)	北陸電力(株)富山新港火力発電所 LNG 船の航行安全に関する調査委員会 作業部会	(富山市)
11 月 7 日(水)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査 第 1 回委員会	(金沢市)
11 月 20 日(火)	北陸電力(株)富山新港火力発電所 LNG 船の航行安全に関する調査委員会 第 3 回委員会	(富山市)
12 月 7 日(金)	新潟港(東港)大型客船入出港に係る航行安全調査 第 1 回調査会	(新潟市)
12 月 19 日(水)	伏木富山港(伏木地区)大型客船入港に係る航行安全調査 第 2 回作業部会	(富山市)
12 月 25 日(火)	国際石油開発(株)直江津 LNG 受入基地対象 LNG 船の大型化計画の安全性に関 する調査 作業部会	(新潟市)
12 月 27 日(木)	舞鶴港港湾計画改訂等に伴う船舶航行安全対策調査 第 2 回委員会	(舞鶴市)

Ⅱ-2 業 務 予 定

- | | | | |
|--|------------|-------|-----|
| (1) 境港外港中野地区岸壁(-12m)船舶航行安全対策調査 | 第1回委員会 | 1月上旬 | 米子市 |
| (2) 舞鶴港港湾計画改訂等に伴う船舶航行安全対策調査 | 操船シミュレータ実験 | 1月上旬 | 川崎市 |
| (3) 金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査 | 作業部会 | 1月中旬 | 金沢市 |
| (4) 金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査 | 操船シミュレータ実験 | 1月下旬 | 東京都 |
| (5) 日本海西部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究
(若狭湾・山陰東部地区)第2回委員会 | | 3月上旬 | 舞鶴市 |
| (6) 平成24年度第2回理事会 | | 3月13日 | 新潟市 |
| (7) 会報第108号発行 | | 4月下旬 | |

走 錨 注 意 !

2012年 11月							2012年 12月							2013年 1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	1	2	3	27	28	29	30	1	2	1	1	2	1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31		



CH16の常時聴取!

第九管区海上保安本部

2013年 2月							2013年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	1	2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	
3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	31		24/31	25	26	27	28	29	30

- <走錨に対する備え>
1. 適切な守錨当直
 2. 適宜の船位確認、他船の動静確認
 3. 機関の準備
 4. 当直者への明確な指示(ナイトオーダーブックの記載)
 5. VHF16チャンネルの常時聴取
 6. AISの常時作動
 7. 走錨後の避台場所の検討
 8. ファウルアンカー・からみ猫など最悪の事態を想定した早めの対応
 9. 陸岸までの距離に注意(走錨速度は1~3ノット)

出雲の神々に思う

元舞鶴所長 山本勝眞

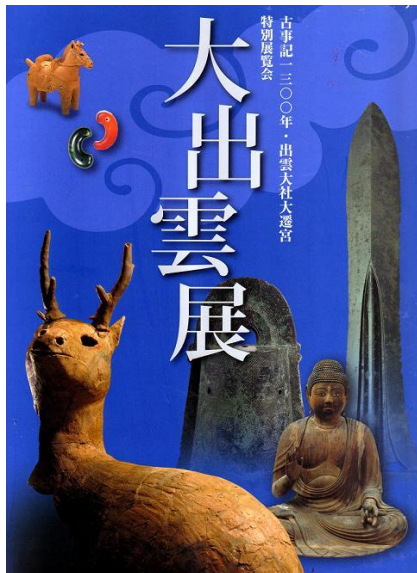
これまでこの稿では、しばらく舞鶴の神々について紹介してまいりました。

しかし、今回は、この秋足を運んだ京都での「大出雲展」をとおして、出雲というものを考えてみようと思います。

従来から申し上げていますように、私は、考古学という見地から古代をのぞき見ることが大変不得手で、常に神社やそれに祀られている神々をとおして、古代大和や出雲、そして日向をのぞき見てきました。

饒速日命大和大王説、邪馬台国日向説、天照皇大神卑弥呼説等々がそれなのですが、その意味で、昨今、畿内を中心とする各地の発掘調査により、考古学上の史実が白日の下に晒されていくことで、私のロマンが崩れさるといふ寂しも感じておりました。

しかし、今回の「大出雲展」をとおして見る古代出雲の話は、私のロマンに逆らうもではなく、むしろ神話のなかに塗り込められてしまった古代出雲が、史実として結びつけられているようで、とてもすがすがしい気持ちにさえなるのであります。



行かれた方もあるかと思いますが、今年の10月から11月にかけて、京都市内の京都国立博物館で「大出雲展」が開催されました。今年は、『古事記』が712年に完成してから1300年の節目にあたり、また来年2013年は、60年ぶりに出雲大社の大遷宮が行われるということで、この「大出雲展」は開催されたということでした。

私も10月に見学に行きましたが、出雲で出土した銅剣、銅鉾、銅鐸や、埴輪などなど、古代を彷彿させる数々の展示物に触れ感動してまいりました。

もちろん私のほかに、多くの人々が見学しておられ、みなさんそれぞれの博識の上に立って、あるいは、グループの方から説明を受けたりして見学しておられましたが、古代の歴史に興味をお持ちの方

の多いのには驚いたものです。

8世紀の初めに編纂された、古事記・日本書紀（これら二つの古書は、一般に「記・紀」と呼ばれています。）は、日本最古の歴史書とされています。（記・紀の間には8年の開きがありますが・・・）しかし、出雲に関する記・紀の記述を見ますと、すべてが神話になっており、およそ事実とはかけ離れた物語で構成されています。

稗田阿礼が諳んじていた日本の建国に至る物語を、大安万呂が編纂献上した。というような言い伝えになっています。（このあたりの詳しいことは勉強不足でわかりませんが・・・）

記・紀神話は、高天原神話、出雲神話、日向神話の3つの部分から成り立っているのですが、記・紀が成立した頃は、裏日本の辺境に過ぎなかった出雲が、これらの神話の世界では、なぜか重要な位置を占めておりまして、たとえば、日本人なら誰でも子供の頃父母から聞いた大国主命の国譲り、素戔男尊の八岐大蛇退治、大国主命が因

幡の白ウサギを助けた話などがそれですね。

しかし、すべてこれは現実とはかけはなれた内容、つまり歴史の実話として信ずるに足る物語ではありません。もちろん、当時、力（権力）のある人物によってなされた偉業など、なにかしらモデルになる様な出来事があったのかもしれませんが。

ではなぜ、記・紀は、神話に封じ込めながら出



雲の話をこれほどくわしく紹介しているのでしょうか。

そのことについては、つい最近まで深い謎につつまれていて、辺境の地の神話じみた話には、史実的価値がないと思われていたのです。その理由は、考古学上、史実として認められる決定的な証拠、つまり裏付けとなる発掘品の乏しさによるものと思われます。

出雲地方（現松江市を含む）には、実は重要な古い神社が多くありますし、また、四隅突出型墳丘墓の存在などからも、古代出雲の存在を事実として考える人たちも沢山ありました。しかしながら、やはりその証拠の乏しさから、どうしても説得力に欠け、出雲はなかったという解釈が通説だった様です。



ところが20世紀の末になって、島根県の出雲地方で、次々と考古学上の重要な発見が相次ぎました。まず1984年に、簸川郡斐川町大字神庭字西谷（現在は出雲市）いうところの、広域農道建設予定地の工事事前発掘調査で、それまで国内

内で発見された総数を上回る358本もの大量の銅剣が一箇所から見つかりました。これらの銅剣は、小さな丘の中腹に四列に並べて埋められていたそうです。またその翌年、同じ場所で、今度は銅鐸6個と銅矛16本が発見されました。（この遺跡は、荒神谷遺跡といいます。）

もう一つの発見は、1996年、荒神谷遺跡から3キロぐらい離れたところの大原郡加茂町（現雲南市）の農道建設現場で、山を崩していたショベルカーが偶然に銅鐸をひっかけたこと、掘り起こしたことから、工事を中止して発掘調査をしたところ、この場所からは最終的に39個の銅鐸が発見されました。（この遺跡が加茂岩倉遺跡です。）

詳細な調査の結果、発掘された銅剣、銅矛、銅鐸の中には、日本各地の他の遺跡に

は見られない出雲特有の特徴を持った物も含まれていることもわかったそうです。

これらの出来ごとにより、「出雲は存在しなかった。」というそれまでの考古学の常識は、大きく覆され、「古代に出雲は存在した。」ということが白日のもとに照らされることとなりました。つまり神話に封じ込まれてしまっていた出雲が、史実としての出雲の存在になったということなのです。

ところで、出雲大社は全国的大変有名な社ですが、そのほかにも出雲地方(現松江市近郊も含めて)には、由緒ある神社が沢山あります。

松江市の神魂神社(「かもすじんじや」と言い、松江市所在)などは、国宝に指定されている神社です。現在出雲大社の祭祀は、日向族の天の穂日を祖とする千家(出雲大社の宮司は出雲国造とよばれる)が行って



神魂神社

おられます。もともと出雲国造は、神魂神社の祭祀を行っておられたようですが、杵築大社(出雲大社のこと)が創建された際に、移って来られたと伝わっています。出雲国造が亡くなった際の「火継の儀式」(宮司相続の儀式)は、現在でも神魂神社で行われているとのこと。

出雲の熊野大社(松江市所在)なども、あの有名な和歌山の熊野本宮大社の元宮という説もあります。



出雲熊野大社

これら2つの神社を含めて、他に真名井神社、揖夜神社、六所神社、八重垣神社の6社を「意宇6社」(いずれも松江市内)と呼び、出雲地方の由緒ある重要な神社とされています。

そして、この地方にある神社は、みな大社造り(妻入りタイプ)のお社ばかりです。

ちなみに、「意宇」は「おう」と

呼び、旧地名ではありますが、現在でも意宇川という川が流れています。

こういったことから、古代出雲が、あるいは神話に出てくる神々(あるいはそのモデルとなった実力者?)が架空のものであるはずがないと思うのです。

IV 連絡事項

☆会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。

○ 指定代表者等の変更

頁	会 社・団 体 名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
18	秋田曳船㈱	代表取締役社長 西 宮 公 平	業務課員 船 木 祐 伸
〃	秋田漁業協同組合	代表理事組合長 山 本 健 藏	専務理事 船 木 律
22	㈱近藤組	取締役社長 近 藤 正	工事部部长代理 田 村 勝
〃	新光港運㈱	代表取締役社長 吉 川 英 夫	常務取締役 旭 政 一
〃	東亜建設工業㈱	北陸支店支店長 天 宅 健	管理室長 堀 越 斉
23	新潟水先区水先人会	会 長 西 村 陽 造	
26	中部電力㈱	上越火力発電所所長 小 林 照 典	業務課長 浅 田 清 智
31	福井石油備蓄㈱	常務取締役福井事業所長 今 西 正	業務部長 勝 田 也 寸 志
40	北陸電力㈱福井火力発電所	所 長 米 屋 敏 樹	業務課長 上 塚 貢 明